

明覚駅の ここまでと、 ここから。

八王子駅と高崎駅を結ぶJR八高線。そのほぼ真ん中に位置する明覚駅は、ときがわ町に唯一の駅として、町民や観光客に利用されています。長く町民に愛されてきた明覚駅。今月号では、その歴史の変遷と、「ここから」について探ってみました。



2009年撮影

明覚駅の歴史を追う

昭和3年
(1928)

旧国鉄により、八高線の建設が開始された。工事は、小川町を境として、八王子方面を南線、高崎方面を北線と呼ぶ2工区に分けられ着工した。

昭和9年
(1934)

八高線が全線開通し、明覚駅が開業。1日平均乗車人数58人。

昭和22年
(1947)

1日平均乗車人数が、昭和21年度の62人から527人に急増。終戦直後、買い出し列車として利用され、かつ運行本数が少なかったため、連日超満員の乗客を乗せていたという。

昭和35年
(1960)

明覚駅の利用人数の最盛期。最も多かった年は昭和44年度で、1日平均1,901人も乗客が利用した。まだ自家用車が普及していない高度経済成長期の通勤手段としての利用に加え、戦後のベビーブーム世代が高等学校に進学するにあたり通学での利用が増えたためといわれている。

昭和40年代

昭和58年
(1983)

徐々に利用人数が減少し、乗車人数の1日平均が1,000人を割る。



公園で遊ぶ子どもたち
(年代不詳)



駅前を走る埼玉国体の旗リレー (昭和42年)

1日平均乗車人数が1,000人を突破する。